

ひろか

だより

第384号

令和6年7月23日

発行



弘果弘前中央青果株式会社

津軽の「うまい」がここにある

臨時社員

短期
アルバイト

募集中

弘果

津軽
りんご市場

津軽りんご市場

開場30周年記念式典・祝賀会

盛大に開催

株式会社津軽りんご市場（八木橋宏弥代表取締役社長）では6月18日、板柳町多目的ホール「あぶる」において、開場30周年記念式典と祝賀会を開催しました。りんご出荷組合、買参人、関連団体等の関係者約330名が出席し、開場30年の節目を祝いました。

同社は、本社である弘果弘前中央青果のりんご取扱量増加に伴い、集中するりんごの分散と、西北五地域の生産者への利便性を図り、同地域での新規開拓につなげる構想のもと、津軽平野の中央に位置する板柳町を取り組む企業誘致を受け「全国初のりんご専門市場」として誕生しました。

を合わせ三位一体となったことも大きな力となりました。当社の使命は、地方卸売市場としての安全・安心なりんご流通の円滑化と、地域経済の振興と発展です。その実現に向け、弘果グループが指針として掲げる「誠実・奉仕」「創意・工夫」「改革・挑戦」の意味を今一度再確認し、役員一同、渾身の努力を傾注して参ります」とあいさつしました。

その後、開場30周年を祝う祝舞が披露され、関係者で鏡開きを行い、青森県りんご協会内山仁会長が発声で乾杯しました。出席者はこれまでの歩みを振り返りつつ歓談し、親睦を深めていました。



開場30周年の節目を祝い行われた鏡開き

式典にあたり八木橋社長は「当社は、『地域とともに歩む産地市場』としてこの30年、幾多の困難に直面してきました。難局を乗り越えられたのは、関係各位のご支援、ご協力の賜物であり、加えて生産者団体の津軽りんご市場連絡協議会と買参人組合峰峰会、そして当社が力

津軽りんご市場峰峰会（竹谷保会長）創立30周年を記念して7月9日、アートホテル弘前シティにおいて、会員関係者約100名が出席し、式典が開催されました。同会は、会員相互の親睦と融和を図り、りんご取引の適正を期し、業界の一員としての使命と自覚のもとに互いに協力し合い、相互の発展と青森県の基幹産業たるりんごの流通発展に寄与することを目的に設立されました。現在、78事業所が加入し、活動を行っております。

問題を抱える中、まさに正念場を迎えています。この難局を乗り越えるため、市場生産者の方々と手を携え、一体となって諸問題を解決し、次世代へ明るい未来を提供するため、全力でまい進いたします」とあいさつしました。その後、来賓祝辞、関係団体への感謝状の贈呈、大口買参人の表彰、祝賀会へと続き、会場は祝賀ムードに包まれ、節目の年を祝いました。



開場30周年を迎えあいさつする八木橋社長

式典では竹谷会長が「設立時の目的に向けて、皆様のお力添えにより、今日まで活動できたことに深く感謝申し上げます。そして現在、業界がおかれて



創立30周年を迎えあいさつする竹谷会長

令和6年産りんご開市
8月2日（金）
弘果弘前中央青果
午前8時30分
津軽りんご市場
午前8時30分

木造地区生産者憩いの集い



歌謡ショーで賑わう会場内

取獲・出荷作業が本格化し、忙しい時期を迎える生産者にしばしの「憩い」の時間を楽しんでもらおうと会場では、大鍋で煮込んだモツ鍋、豚のサガリや焼きそばなどが振舞われ、演歌歌手「美咲綾花」による歌謡ショーを満喫し、最後は豪華景品が当たる大抽選会で盛り上がりました。

西瓜やメロンの生産者が交流や親睦を深めることを目的とした「生産者憩いの集い」が6月29日、弘果狐槌集荷所特設会場において開催されました。当日は特設会場に約200人が来場し、当社葛西静男社長のあいさつ、青森オリジナルメロン生産連絡協議会の渋谷充会長のあいさつに続き、同協議会野呂勇副会長の音頭で乾杯が行われました。夏本番を前に、西瓜・メロン等の

見直し摘果の徹底で高品質なりんご生産

令和6年産りんごの生育状況は、春先の気温が高かったことで主力品種のふじの開花は昨年よりも2日遅く、平年よりも10日早い4月27日に開花しました。その後、気温が平年よりも高く推移したことで肥大が進み、7月16日に行われた肥大調査では開花が早かった前年よりも大きく、順調に生育しています。一方で開花期の強風や乾燥によるカラマツの影響から中心果の欠損や変形が見られ、側果対応による品質の低下が懸念されます。また、ふじや早生ふじ系は場所や樹によって着果にバラつきが見られています。摘果作業が終盤を迎えていますが、高品質りんごの生産には品質の良い果実を残すことが重要になります。更に来年度に向けて充実した花芽形成と開花量確保のために、見落としや成らせ過ぎの部分がないか、必ず見直し摘果を行うようお願いします。今年も高品質で美味しいりんごを生産しましょう。

アムさんメロンをPR



アムさんメロンの試食を勧める渋谷会長

「おいしい」の一言は、これからの生産の励みとなります」と話していました。今回の試食販売について渋谷会長は「消費者の意見や反応を直に感じたことで、更なる食味・品質向上の意欲へつながります。そして『おいしい』の一言は、これからの生産の励みとなります」と話していました。

仙台で販促活動 試食販売では、渋谷会長が率先して買い物客とコミュニケーションを図り、試食を提供していただきました。試食した買い物客からは「生産者の方と対面して説明を受けて試食をしていると、その美味しさの裏には、メロンと向き合い、もっと美味しくしようと努力する、生産にかける情熱を感じました。メロンの美味しさと生産者の方に敬意を表して、購入して家でも楽しみたいです」との声がありました。

「農」の「業」を継ぐ

期待の後継者



岩谷

祐斗さん

(27)

【園地所在地】弘前市中崎
【作付状況】アーバンデリシヤス

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

リシヤス・ハウス2棟(100坪×2)、りんご1畝、他
【就農年】2017年
【きっかけ】りんごをメインに栽培する農家に生まれ育ちました。やがて家業を継ぐことを念頭に、青森県農業大学校に進み、卒業後は家業の手伝いをしていました。そして自分でも新たな品目を栽培していきたいと思

い、ハウスを建てトマトを栽培しました。しかし、考えていたよりも上手くいかず、他の品目への転換を考えていたところ、営農大時代の同級生が弘果の農産指導課におり、色々と相談に乗ってもらっていました。その中で、弘果の栽培指導が行き届いていて、「つがりあん」ブランドとして販売にも定評があるメロン「アーバンデリシヤス」を選び栽培を始めました。

【現在】メロン生産において、弘果の栽培指導、出荷・販売面でのサポートが非常に心強く、今や自身の農業経営に欠かせないパートナー的存在です。食味良く高品質なメロンを栽培



最盛期を迎えたアムさんメロン競売

アムさん 概ね順調な取引で推移

当社オリジナルブランド「つがりあんメロン」アムさんの入荷が、7月上旬から中旬にかけてピークを迎えました。

今年産は肥大型の低温等で玉伸びが進まず、若干の小玉傾向ですが、順調な入荷となりました。当社の取扱いは、7月19日までの累計は、数量16万2千キ(前年比102.3%)、平均単価1キあたり620円(同94.2%)と、高単価で推移した昨年を下回る単価となりましたが、過去5年の平均単価(592円)を上回り、概ね順調な取引となりました。

つがりあんピタ 選果機利用受付中

光センサー(糖度測定を含む)選果機を使用し、有利販売に繋がります。

【品種】中生種、晩生種
※その他品種についてはご相談ください。

【選果料】1箱250円(税別)
※中コンテナ1箱あたり【申込みについて】詳細は当社果実部まで

当社が販売する「ハローキティ森のバナナ」の売上の一部は、白神山地の保全に役立てられています。その活動の一環として、鱈ヶ沢町黒森地区の「白神自然学校遊々の森」で6月23日、NPO法人白神山地を守る会を中心とした実行委員会が主催する「白神山地バナナ植樹フェスタin赤石川」に当社職員4名が参加しました。このイベントは、ブ



バナナの植樹を行う当社職員

が参加し、苗木50本の植樹を行い、バナナの森の未来に願いを込めました。

【夢・展望】ハウスを増設し、栽培品目を増やしていく等、農業経営の多角化を模索しています。そのためにも現在の規模で、農業経営の基盤をしっかり構築していきたい。



弘前市内の小学校で行われた「親子フラワーアレンジメント教室」

花き部森悟課長は「花は生活の潤いと心の豊かさを育む必需品であり、常に身近にあるライフスタイルが構築できれば良い」と考えます。学校や職場等で積極的に花育活動を行い、花き全般への理解、関心を深める一助となるように、業界全体で盛り上げていきたいと思



有意義な対話を行った宮下知事(中央)と参加者

【座右の銘】「アイデアに価値はない。それを実行できて初めて価値になる」ゲイブルの共同創業者でCEOのラリー・ペイジ氏の名言です。アイデアは実行により初めて意味を成します。何事もアイデアを考えているのであれば、実現に向けて行動するようにして

Hello Kitty
森のバナナ

売上の一部を世界自然遺産「白神山地」の保全活動資金として寄付いたします。

ニュース



永井代表(左)に寄付金を手渡す成田常務

当社では7月19日、「ハローキティ森のバナナ」寄付金贈呈式を行い、令和5年度売上金の一部にあたる6万9656円を、NPO法人白神山地を守る会(永井雄人代表)に寄付しました。「ハローキティ森のバナナ」は、平成19年11月より世界自然遺産白神山地の環境保全活動に役立ててほしいという願いから、青森県内の量販店で販売しており、売上金額の一部(1パック1円)を寄付しています。

花き部 花育活動 体験学習開催

弘果花き部では、「青森県花のくまの協賛会」の花育体験、園芸体験の一環として、花をもっと身近に感じてもらうとさまざまな場所で花の体験学習を開催しています。今年度の活動として、弘前市内の小中学校での「親子フラワーアレンジメント教室」や、花き部において、中学生の職場体験プログラムの一環として「生け花教室」等を行っております。

宮下知事とりんご高密度植栽培意見交換 青森市浪岡にある弘果総研りんご高密度植栽試験園地において6月22日、宮下知事と青森県おばなが開催されました。

「明日の青森りんごをデザインしようぜ!」若手生産者&新規就農者が描く経営ビジョンをテーマに、弘果総研りんご高密度植栽培研究会メンバーの生産者、弘果総研社員、弘果総研りんご高密度植栽培モデル園の農業研修生、りんごの苗木を生産・販売している原田種苗の社員ら11人が、知事を囲んで意見交換を行いました。知事に直接思いを伝え

りんご協会へ募金贈呈

弘前市の津軽カントリークラブにおいて6月5日、「第37回弘果社長杯親睦チャリティゴルフ大会」が開催されました。今回の大会には県内外の取引先関係者、弘果グループ役員員など135名が参加しました。



内山会長(左)に目録を手渡す 會田委員長(右)

大会で集まった18万8371円のチャリティ募金は、6月24日に會田一男大会実行委員長より「青森県りんご産業振興に役立ててください」と、青森県りんご協会の内山國仁会長に手渡されました。